

株式会社ふるさと鹿野 経営状況報告書

1 法人概要

- | | |
|-------------|--|
| (1) 名 称 | 株式会社ふるさと鹿野 |
| (2) 目 的 | 行政とともに推進していく第三セクターの民間組織として、温泉宿泊施設、特産品の製造、販売や飲食サービスの提供といった収益性の事業と、まちづくりや体験交流といった公益性の高い事業の取組による連関効果を図り、公民連携の企業経営を展開して、鹿野地域の活性化、雇用創出等の役割を担う拠点機能をめざしている。 |
| (3) 設立許可年月日 | 平成16年 8月17日 |
| (4) 設立登記年月日 | 平成16年10月 5日 |
| (5) 資 本 金 | 金35,000,000円（うち鳥取市17,550,000円） |
| (6) 役 員 構 成 | 取締役7名 監査役2名
代表取締役社長 長尾 裕昭 |
| (7) 事務所所在地 | 鳥取市鹿野町今市972番地1 |

2 令和5年度事業実施状況

核となる施設の山紫苑は、新型コロナの5類移行に伴い、休憩利用者数は計画を大きく上回ったものの宿泊利用者数が予想に反し伸びず、前年度比21,000千円の増収となったが、前年度とほぼ同額の11,559千円の赤字収支となった。今年度よりコンサルタントと契約し、経営改善に向け、新規宿泊プランの造成やじゃらん・楽天などオンライン旅行代理店の強化へ取り組みつつ、ハローワークの事業を活用した週1副社長による日帰りバスツアーの提案、覚脳研究所と連携した認知症予防体験付プランの造成など誘客に取り組んだが計画数値を達成できなかった。

温泉館は、昨年度からの割引キャンペーン事業の打ち切り、5月にレジオネラ菌検出による休館、1月に故障によりサウナ設備が使用できないなどが重なり利用者数が減少した。売上の減少と経費の増加で収益は大きく減少したが、黒字収支を確保できた。

そば道場は、過剰となっていた玄そばの在庫処分により1,936千円の損益が生じたが、6月からのメニュー価格の値上げにより、1,063千円の黒字収支を計上できた。

そば処は、従業員不足に伴う臨時休業なども影響し利用者数が減少、おもしろ市場も常態化した野菜類の商品不足のため利用者数の減少に歯止めがかからず、両施設とも売り上げが減少し赤字収支となった。

加工所は、勤務形態の見直しによる人件費の抑制とあわせ、期間限定商品の販売、主力商品である乾麺と半生麺の販売に注力したことで、前年度に引き続き236千円の黒字を計上できた。販路を見直した切り花事業、農作業受託やコメ・そば等農産物販売が好調な農業部門は国の交付金収入もあり、両事業とも黒字収支となった。鹿野往来交流館は、「昭和レトロ展」他企画イベントが好評ではあったが、利用者数は前年度と比べ減少した。

会社全体としては、前年度と比べ黒字事業部門の収益が減少したことにより、赤字事業部門を埋めることができず9,191千円の赤字決算となった。

3 令和5年度決算書

(1) 貸借対照表（令和6年3月31日）現在

（単位：円）

資産の部		負債及び資本の部	
科目	金額	科目	金額
1 流動資産	89,559,930	3 流動負債	32,711,185
(1) 現金	3,346,901	(1) 買掛金	14,662,708
(2) 預貯金	54,091,335	(2) 未払い費用	14,283,116
(3) 未収金	16,960,213	(3) 預り金	508,976
(4) 棚卸資産	15,141,481	(4) 納税充当金等	232,500
(5) 前払費用	0	(5) 前受金	0
(6) 仮払金	20,000	(6) 仮受金	144,785
(7) 立替金	0	(7) 未払消費税	2,879,100
		(8) 短期借入金	0
		4 固定負債	135,155,000
		(1) 長期借入金	135,155,000
2 固定資産	25,445,618	負債合計	167,866,185
(1) 有形固定資産	24,045,618		
(2) 無形固定資産	0	5 資本の部	△ 52,860,637
(3) 投資その他資産	1,400,000	(1) 資本金	35,000,000
		(2) 自己株式	△ 2,000,000
		(3) 別途積立金	49,000,000
		(4) 当期末処理欠損金	134,860,637
資産合計	115,005,548	負債資本合計	115,005,548

(2) 損益計算書 (令和5年4月1日～令和6年3月31日)

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 営業損益の部		III 特別損益の部	0
1 営業収入	348,821,376	1 特別利益	2,477,000
2 売上原価	87,644,276	2 特別損失	2,477,000
3 売上総利益	261,177,100	(1) その他特別損失	0
4 販売費及び一般管理費	279,076,231	(2) 固定資産除却損	0
(1) 人件費	144,310,890		
(2) 事業費	126,886,584	IV 税引前当期利益	△ 8,958,699
(4) 諸税負担金	1,237,184	V 法人税及び住民税	232,500
(5) 雑費	6,641,573	VI 税引後当期利益金	△ 9,191,199
(6) 施設使用負担金	0	VII 前期繰越欠損金	125,669,438
5 営業利益	△ 17,899,131	VIII 当期末処理欠損金	134,860,637
II 営業外損益の部			
1 営業外収益	10,572,570		
(1) 受取利息	592		
(2) 雑収入	10,571,978		
(3) 受託料	0		
(4) 貸倒引当金戻入	0		
2 営業外費用	1,632,138		
(1) 支払利息	1,625,391		
(2) 雑損失	6,747		
3 経常利益	△ 8,958,699		

(3) 財産目録

(1) 貸借対照表の資産の部および負債の部と同一につき省略

(4) 剰余金計算書

前期繰越欠損金	125,669,438 円
当期利益金	△ 9,191,199 円
当期未処理欠損金	134,860,637 円

(5) 剰余金処分計算書

別途積立金	49,000,000 円
次期繰越欠損金	85,860,637 円

4 令和6年度計画

核となる施設の山紫苑は、受け入れ態勢を整え顧客満足度の更なる向上と収益確保を最優先課題として捉え、老朽化の進んだ施設をレトロ感として上手くアピールしながら、近隣施設や地域のNPOなどとの連携を強化し、鹿野ならではの取組みとして進めていく。昨年度取り組んだ日帰りバスツアーによる集客や各旅行会社への宿泊プランの提案、合宿やねりんピックをはじめとした各種団体の取り込みなど、積極的な売込みにより利用者拡大を図る。温泉館は清掃等衛生管理を徹底し、好評なサウナを売りに趣向を凝らしながら固定客確保と利用者拡大に努める。そば道場・そば処は十割鹿野そばの美味しさをアピールしながら誘客していく。そば道場の好評なつゆの味を再現したそばつゆを製造し、商品として販売していき、十割そばと共に鹿野そばのブランド力の向上を図る。おもしろ市場は今年度から当社直営に変更し、商品の充実を図ると共に利用者拡大により赤字からの脱却を目指す。加工所はそばの加工品の販路拡大と餅づくりに特化、切花は市場の動向を注視し的確な判断により収益確保に努める。農業は地域の環境保全・景観維持の使命も念頭に置きながら連続黒字を目指す。鹿野往来交流館は、四季折々地域に根差した各種イベントの開催や地域の魅力を広く発信し交流人口拡大に努める。全部門を通して、収益確保を最優先課題とし、黒字転換を図り経営の安定化を目指す。

(単位:円)

科目	金額	科目	金額
I 営業損益の部		III 特別損益の部	0
1 営業収入	404,578,000	1 特別利益	0
2 売上原価	113,810,000	1 特別損失	0
3 売上総利益	290,768,000		
4 販売費及び一般管理費	294,456,000	IV 税引前当期利益	4,613,000
(1) 人件費	155,262,000	V 法人税及び住民税	232,500
(2) 事業費	131,021,000	VI 税引後当期利益金	4,380,500
(4) 諸税負担金	1,357,000	VII 前期繰越欠損金	134,860,637
(5) 雑費	6,816,000	VIII 当期未処理欠損金	130,480,137
(6) 施設使用負担金	0		
5 営業利益	△ 3,688,000		
II 営業外損益の部			
1 営業外収益	10,065,000		
(1) 受取利息	0		
(2) 雑収入	10,065,000		
(3) 貸倒引当金戻入	0		
2 営業外費用	1,764,000		
(1) 雑損失	0		
(2) 支払利息	1,764,000		
3 経常利益	4,613,000		